HKFA TECHNICAL REPORT

U-13 北海道トレセンキャンプ（前期）

5月24日から26日迄の３日間、南北の会場と宿舎に分かれて上記キャンプを行いました。一日目と2日目は、U-13としてのコンセプトについて、トレーニング及びレクチャーを行い、3日目は11v11のゲームを行い三日間のキャンプを終えました。

Fp セッション1【守備】積極的にボールを奪う

1stDFのアプローチの意識が高まり、2ndDFも常にボールを奪おうと狙っているような姿勢が見れるようになった。また、GKに対しても積極的にボールを奪いに行くことで、ミスを誘発し、得点に繋がる場面が複数あった。サイドチェンジされても下がることなく、前に押し出して（縦スライド）攻撃を遅らせる、またはその次で奪ったシーンも見られた。

ただ、まだコーチングがあってから動きだしたり、ボールから遠い選手が頭を休めていたりする場合があるので、更なる改善が必要である。

Fp セッション2【攻撃】ボールを失わずにゴールを目指す

相手の逆をつくコントロールやパスの質で相手のプレッシャーを剝がそうという意識はついた。また、ファーストタッチで持ち出すことによって選択肢を複数持つことができ、そこから選択できるようになった。ただし、オフ同士の選手の関わりが薄く、縦パスが入っても個人での打開しかない状況になることが多かった。

また、相手が多い状況にも関わらず縦にボールを入れてしまいボールを失うこともあった。なので、縦パスを入れるべきなのか、横パスを使って相手を広げたのちに縦パスを入れるべきなのか判断ができるようになりたい。

Fp セッション3【攻守】ゴール前の攻防に勝つ

ゴール前の攻防は、北海道の課題の一つである。攻撃では、まず優先すべきはゴールへの最短距離である中央突破を目指すことであるが、相手が中央を閉じた場合サイドを有効に使うこと、そしてどこから攻めるかを相手を見て判断することを求めたが、相手の守備を見て判断出来ているプレーは少なかった。ただ、クロスを上げる時の優先順位や入るタイミングや人数は落とし込むことができ、ゲームでは迫力をもってクロスに対して入っていったシーンが何度も見られた。課題としては、サイドにボールが流れたら必ずクロスではなく、相手を見て、クロスをキャンセルして中央から攻めたり、逆サイドに展開したりという相手を見て判断できるようになることである。また、守備においてはDF陣はGPと連携してゴールを守ることの質はもっと高めたい。

GK 観る・分析する・予測する

１日目は基本姿勢とキャッチング、ダイビングのテクニックを確認してアングルプレーの練習を行った。角度をつけるとニアが空いてしまうことが多かったので、正しいポジションを意識しながらプレーするように働きかけた。アングルプレーの練習後にＦＰと一緒に練習する中でポジションを意識しながらプレーすることができていた。

２日目の午前はブレイクアウェイの練習を行った。ピックアップ、フロントダイブ、プレッシャー、ブロッキングのテクニックを確認してからＦＷ役をつけたファンクションＴＲで判断要素を取り入れたことで、ＦＰと一緒の練習でも積極的にブレイクアウェイのプレーにチャレンジしていた。高い位置を取りすぎて失点することもあったが、トライすることで課題が見つかったので今後のTRを通じて改善していきたい。午後はクロスボールの処理の練習を行った。ボール状況に応じて守備範囲を広げるためにポジションを修正しながら落下地点を見極めて最短距離でボールにアプローチできるようになるとさらに良い。

最終日のゲームでは、常に声をかけながら積極的にプレーすることができていたが、まだまだポジションがずれたり、テクニックに粗さも見られた。また足元のテクニックがあるので、プレーの選択肢をもってプレーできるようになると更に良い。今後の活躍が非常に期待できる。

FP セッション4【Game】

A,B の2チームに分かれ、20分×4本（1人2本）のゲームを行った。ゲームは、攻守の切り替えが早く、全体的に強度の高い内容となった。守備面では、セッション１で行った積極的な守備、特に前線からの守備がうまくはまり、得点に結びついたシーンが複数点あった。反対に攻撃面では、前線からの守備をかいくぐれず、ビルドアップの途中でボールを奪われ、失点した場面があった。原因としては、オフとオフの選手のポジションの共有が出来ていなかったことや、セッション2で行ったパスやコントロールの質や選択肢を多く持つためにボールを持ち出すことの質、動きながらのコントロールの質がまだ低いと感じた。ただし、前線からの守備をうまくかいくぐれた時には良い攻撃に繋がっていた。また、セッション3で行ったゴール前の攻防、特にサイドからの攻撃も出ていた。ただし、フィニッシュの質はもっと上げなければならない課題であると感じた。

また試合全体を通して、高い強度の中でも出来る選手と出来ない選手が良く見えたゲームになった。今後も高い強度の中でもっと質を求めていきたい。

CH 謝辞

本事業は昨年度まで1会場に約30名の選手を招集して実施してきましたが、JFAの育成グランドデザインの変更を受けて、今年度から2会場各44名を招集する形に変更しました。そのような大きな変更にも関わらず、選手保護者様および所属チーム代表者様、各ブロックおよび地区技術委員会の皆様のご協力によって無事に終えることができました。関わってくださった全ての方に感謝申し上げます。

今後も北海道内で行われるトレセン活動へのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

(公財)北海道サッカー協会
技術委員会(U-14部会代表)　白﨑　健策